

## 地域活性化支援員 根津真枝さん 退任挨拶



札幌市から白糠町に移住し、地域おこし協力隊として着任したのが2011年5月1日、協力隊としては6年、地域活性化支援員として、この「広報しらぬか」の編集に携わって3年、計9年間お世話になりましたが、3月末をもって退任することとなりました。

「町の情報を発信する」という任務のもと、これまでさまざまな仕事をさせていただきました。白糠に来た当日から書き始めたブログ「白糠って知らぬかった!」の記事も900を超えました。ブログを見返すと、本当にいろいろな経験をさせてもらったなあとしみじみ実感しているところです。ブログと同時進行で始めたSN

S(会員制交流サイト)のフェイスブックでは「白糠町」と「道の駅しらぬか恋問」のページを作成し、日々の情報を発信してきました。

釧路管内初の地域おこし協力隊ということで、管内のいろいろな活動にも参加させていただきました。釧路新聞(2年半)と北海道新聞(3年)でのコラムの連載も楽しく書かせていただきました。

そして、情報発信の仕事とは別ですが、着任してすぐに携わったシソ畑の仕事も楽しかったです。春のタネまきから秋の収穫・加工作業まで、ほぼ毎日シソ畑に通いました。畑の仕事は決して簡単ではないということをもっと知り、5年間、毎年頭を悩ませながら、シソを育てましたが、今となっては懐かしく大切な思い出です。

庶路学園の建設現場で、学園が完成するまでのレポートをさせていただいたのも貴重な経験となりました。また、白糠町の特産物を紹介するイベントやツアーなどの企画もさせていただき、町内外で白糠町のPRをしてきました。当時はまだまだ知られていなかった白糠の町の情報をいかに知ってもらうか、いろいろなことを試してきました。

### ◇なにもない町？

白糠に来たばかりの頃は、町の皆さんが「この町はなにもない」と言っているのをよく耳にしました。そこで私は、皆さんとお話する機会を得るたびに「白糠には他の町にはないたくさんの魅力、特産物があり、自慢に値するすごい町です」とお話ししてきました。特に食材に関しては、町外の方や飲食店さんに紹介すると、ぜひ食べてみたい、お店で使いたいという反応があり、そういった仲間などもいました。

ここ数年、白糠町内でも地元の食材を使った料理が食べられるお店も増え、町内外、道外からもわざわざ食べに来るとい話を聞くことが増えてきました。

私が発案した『白糠ししゃもの日』が町外にも徐々に定着してきたこともうれしいことのひとつです。



青少年旅行村での草刈り作業。この写真がお気に入りです。名刺にも使っていました。



札幌のオータムフェストでハイジパンや焼きツブなどを販売し、長蛇の列になったことも懐かしいです。

す。地道に頑張れば広まってしまう。ということも実感しました。これは仕事外ですが、アルゼンチンタンゴのサークルも作りました。メンバーの上達ぶりにも感動しています。

### ◇ふるさと

私は札幌市で生まれ育ちましたが、札幌にはあまり愛着を持たず、「ふるさと」だと感じたことはありませんでした。しかし、白糠に住んでみて初めて居心地の良さを感じ、札幌や東京に出張して戻ってきたときも、白糠の景色を見ると不思議と安心するようになったことに気付きました。「ああ、これがふるさとという感覚なのかな」と思い